

令和 3 年 度 施 政 方 針

令和 3 年 3 月 3 日
美祢市長 篠田 洋司

施政方針

(はじめに)

令和三年第一回美祢市議会定例会に臨み、議案の説明に先立ちまして、私の市政運営に取り組む方針を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様の深いご理解と格別のご協力を賜りたいと存じます。

さて、昨年四月の市長選挙におきまして、市民の皆様への負託を受け市政を担わせていただくこととなり、「幸せを感じる美祢市の実現」「市民に寄り添った市政の実現」に向けて、「安心・安全を実感する美祢市を創る」「美祢市の資源を活かし、新たな活力を創る」「次世代を応援する美祢市を創る」「ひとつになれる美祢市を創る」の四つを柱として、その具現化に取り組んでまいりました。

この間、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し、本年一月には再度、緊急事態宣言が発出されるなど、新型コロナウイルス感染症は、我が国の社会経済活動、そして市民生活に深刻な影響をもたらしております。

このことから、私は、まず新型コロナウイルス感染症対策に主眼を置き、スピード感を持って、様々な対策を講じ

てきたところであります。

一方、コロナの危機から生まれた、新たな生活様式や社会変革の動き、とりわけデジタル化の動きは、加速的に進むことが想定されますことから、行政におけるデジタル化の推進が最も重要になると考えております。

そこで、私は、「新型コロナウイルス感染症対策」と「デジタル化社会の推進」を重点項目と位置づけ、取り組むことといたします。

（新型コロナウイルス感染症対策）

まず、重点項目の一点目、新型コロナウイルス感染症対策であります。

新型コロナウイルス感染症の先行きは不透明なところがありますが、ワクチンが薬事承認されたことで、新型コロナウイルス感染症収束への切り札として期待が高まっています。

このワクチンの接種については、国・県の協力のもと、市内の医療従事者から順次接種することとなっています。市民の皆様は、安心・安全でスムーズに接種できる体制を、市立二病院と美祢市医師会・美祢郡医師会と連携し構築してまいります。

また、引き続き新型コロナウイルス感染症の検査が必要

な場合の対応についても、市民の皆様には安心していただけるよう取り組むこととしております。

このように、市民の皆様への命と健康、これを守ることを最優先としつつ、万全の対策の下での経済活性化の両立を図るべく、市では、市内経済の下支えと振興のため、事業者の皆様への経営基盤の安定化、さらに、ポストコロナを見据えた、設備投資による販路の拡大と消費の拡大による、地域内の循環による内需の拡大に取り組んでまいります。

また、ポストコロナを見据え、観光客需要を刺激し、観光による経済活動の引き上げに取り組めます。

令和三年度においても、新型コロナウイルス感染症対策に「命を守る」「生活を守る」、「事業者を守る」「教育を守る」ことに主眼を置き、スピード感を持って対策を講じてまいります。

（デジタル化社会の推進）

次に重点項目の二点目、「地域のデジタル化の推進」であります。

国においては、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、社会全体のデジタル化の遅れや人材不足、システム連携の不備等、様々な課題が明らかとなり、社会全体のデジタル化を強力に推し進めるため、今秋、デジタル庁が設置

されます。

本市においても、市役所及び両総合支所の新庁舎整備を千載一遇のチャンスと捉え、行政と市民生活のデジタル化を、スピード感を待って推進するため、まず、全庁横断的な司令塔機能を果たす、デジタル推進部を設置します。

まずは、行政手続きのオンライン化や標準化・共通化、ワンストップサービスなどを、行政改革と一体となって進めてまいります。

そして、市内のデジタルインフラの格差を解消するため、美東地域に光ファイバー網の整備を促進し、市内全域での、デジタル化を推進してまいります。

そして、社会のデジタル化は、全ての市民の皆様にとって恩恵あるものでなければ意味がありません。デジタル化の推進にあたっては、誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化が大切であり、市民の皆様方にきめ細やかに取り組むことといたします。

以上が重点項目として掲げた「新型コロナウイルス感染症対策」と「地域のデジタル化の推進」の取り組みであります。

(市政運営の方針)

これらの新たな視点を加えた上での、新年度の主な取組

みについて、私が掲げる政策目標に沿って申し上げたいと存じます。

一 安心・安全を実感する美祢市を創る

まず、一つ目の柱「安心・安全を実感する美祢市を創る」であります。

本市における高齢化率は四十二・九％にも達しており、国が二十八・八％でありますことから、本市は、全国に先駆けて超高齢社会を迎えていると言えます。

そこで、私が、就任時から申し上げてきた、「市民の幸せは何か。」まずは、ご自身、そして、ご家族の健康であります。

市民の皆様が、いつまでも、健康で、この地域でご活躍していただく、活躍人口を維持したいと考え、健康寿命の延伸と生涯現役のまちづくりを進めてまいります。

次に防災・減災であります。

近年、局地的集中豪雨の頻発化や激甚化により、市民の安全・安心が脅かされています。災害の情報をいち早く正確に市民の皆様にお知らせし、誰も一人にさせないまちづくりを進めます。

具体的には、携帯電話通信網や防災アプリを活用した情報提供に取り組むとともに、豪雨による河川やため池の増水対策として河川の浚渫・ため池の整備に注力してまいります。

す。

そして、令和三年度から、新たな消防・防災センターが稼働いたします。消防・防災センターは、災害発生時の拠点施設であり、機能の充実は市民の皆様の安心・安全に寄与するものであります。

二 美祢市の資源を活かし、新たな活力を創る

続いて二つ目の柱「美祢市の資源を活かし、新たな活力を創る」であります。

コロナ禍の影響で秋吉台・秋芳洞への来訪者は減少していますが、観光は市勢発展の、エンジンであります。

本市の観光資源を最大限活用し、コロナ禍により高まった、キャンプ需要に着目し、アウトドアツーリズムやスポーツツーリズムの推進にあたっては、昨年、包括協定を締結した株式会社モンベルなど、民間活力を活用しながら取り組んでまいります。

具体的には、広域周遊ルートの造成や県央連携による山口ゆめ回廊博覧会が挙げられます。

さらに、観光分野におきましては、国の制度を活用し、民間から専門人材を受け入れて体制を強化することとしています。

次に森林資源の保全と活用であります。

市域の七割は森林であり、この恵まれた森林資源を活用し、担い手の育成や林業振興を図るとともに、木質バイオマスエネルギーによる地域循環共生圏の構築を目指します。

次に農業・六次産業の振興であります。

農業は、本市における基幹産業であります。しかしながら、農家や法人の後継者不足は深刻であることから、新規就農者や就業者の確保を支援し、農業の持続性を高める取組みを支援します。

さらに、イノシシやシカ等の有害鳥獣の被害も深刻化しており、被害の拡大は農業所得の減少のみならず、生産意欲を減退させていますことから、多様化する有害鳥獣対策に取り組む、農作物被害の減少に取り組めます。

市では、こうした課題に取り組むため、農林業に精通した有識者を登用し、推進体制を強化することとしています。

六次産業においては、組織を充実させ、販路の開拓と販売力の強化に取り組めます。

また、商工業やサービス業においては、新型コロナウイルスの、感染リスクの低い地方移転への関心が高まっていることから、これをチャンスと捉え、テレワークやコワーキング等、働き手の受け入れ環境の整備やワーケーションについても積極的に取り組んでまいります。

三 次世代を応援する美祢市を創る

次に柱の三つ目「次世代を応援する美祢市を創る」であります。

本市にとって、最も重要な課題は「少子化対策」であります。

昨年一月から十二月までの、本市の出生者数は八十七人となり、百人を割り込んでいます。少子化問題は、待ったなしの非常に、深刻な課題と言えます。

少子化の要因は、多様で重層化しており、課題の解決に向けては、総合的な取り組みが必要であることから、庁内横断的な組織を立ち上げ、本市における最重点施策として取り組めます。

次に教育の充実であります。

私の、公約の一つでもありました、「公設塾」については、みね探求塾「挑戦のトビラ」と銘打って、スタートいたします。

また、本年度、G I G Aスクール構想により児童生徒に一人一台の端末を整備したところであります。

これを活用し、A I型の学習教材の導入により、児童生徒一人ひとりに最適な学びを行うこととしています。

さらに、子どもは地域の宝であることから、学校・家庭・そして地域が一体となった、社会総がかりでの学びや育ち

を支援します。

四 ひとつになれる美祢市を創る

最後に市政運営の柱の四つ目「ひとつになれる美祢市を創る」であります。

人口の減少や新型コロナウイルス感染症による、経済への影響により、地方交付税や税収の減少が見込まれる、一方、老朽化の進む公共施設やインフラの更新費用や社会保障費の増加により、本市の財政事情は、ますます厳しくなります。

このような厳しい状況の中にあって、持続可能な自治体経営と市民の皆様が幸せを実感できる市政運営が、私に課せられた最大の使命であると考えています。

将来の美祢市を担う世代に過大な負担を残さないためにも、徹底した行財政改革と長期的、計画的な財政運営が極めて重要であると考えています。

従いまして、地元経済への波及効果等を含め総合的に勘案した結果、美東総合支所及び秋芳総合支所整備のスケジュールを見直す判断に至りました。

新しい、総合支所は、新本庁舎と同時期に竣工する予定で事業を進めてまいりましたが、財源として予定しておりましたが、合併推進債の適用期間が延長されることに伴い、

新本庁舎と時期をずらして整備することといたしました。

今後、大型施設の更新事業が控える中であっても、将来に希望が持てる美祢市となるよう、私自らが先頭に立ち、職員一丸となって山積する課題を、一つひとつ着実に解決することにより、住んでよかった。皆がひとつになれる、「まち」となるよう、まい進してまいります。

(むすび)

むすびに、新型コロナウイルス感染症による難局を乗り越え、市民の皆様の日常を一日も早く取り戻し、「幸せを感じる美祢市の実現」「市民に寄り添った市政の実現」に向け取り組んでまいる所存であります。

議員各位並びに市民の皆様におかれましては、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の市政運営に取り組む方針とさせていただきます。